

- ⑤ **10BASE-T ポート**
10BASE-TのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。

- ⑥ **カスケードポート(= HUB ポート)**
10BASE-TのUTPケーブルでカスケード接続を行うためのコネクタです。

- 🚫 **カスケードポートはポート 1 と共用のため、ポート 1 を使用している場合は使用できません。**

- ⑦ **マグネット**
デスクサイドやスチール製パーティションなどに設置するためのマグネットです。

設置するまえに

- **設置場所**
本製品を設置する場所については、次の点にご注意ください。
 - 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
 - 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
 - 振動の多い場所や、不安定な場所に設置しないでください。
 - 十分な換気ができるように、本体前面、および側面をふさがないように設置してください。
 - テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
 - 本製品は屋外ではご使用になれません。
 - 指定された電源電圧(AC100-120V)以外で使用しないでください。

マグネットによる取り付け

本体背面のマグネットを使用すると、本製品を簡単にスチール面へ取り付けることができます。

- 🚫 **設置面の状態によってはマグネットの十分な強度を得られないことがあります。**

- ⚠ **指示**
ケーブルの重みにより、機器が落下しないように確実に取り付けてください。落下により、ケガの原因となることがあります。

- 🚫 **禁止**
マグネットで機器を高所に取り付けしないでください。機器の落下により、ケガの原因となることがあります。

- 🚫 **禁止**
マグネットで機器を振動、衝撃の多い場所や不安定な場所に取り付けしないでください。機器の落下により、ケガの原因となることがあります。

- 🚫 **禁止**
マグネットで機器をOAデスクなどに取り付けたまま、機器をずらさないでください。被着面の塗装などに傷がつくおそれがあります。

- 🚫 **禁止**
マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により、記録内容が消去されるおそれがあります。

- 🚫 **禁止**
マグネットをパソコンやディスプレイなど、磁気の影響を受けやすい電子機器に近づけないでください。磁気の影響により、故障の原因となることがあります。

- 🚫 **マグネットの設置面によっては、内部の部品が磁束の影響を受け通信に不具合が起こる場合がまれにあります。その場合はマグネット設置面を変更するなどの対応を行ってください。**

接続のしかた

- **ケーブル**
すべてのケーブルが機器間を接続するために適切な長さであることを確認します。本製品とコンピューターなどを接続するケーブルの長さ、また、本製品とHUB やスイッチを接続するケーブルの長さはすべて 100m 以内にしてください。また、ケーブルにはカテゴリ 3 以上の UTP ケーブルを使用してください。

- **起動と停止**
図2のように電源ケーブルのプラグを電源コンセントに差し込むと起動します。電源プラグをはずすと停止します。



図 2 電源ケーブルの接続

● 接続手順

1. 本体下面の 10BASE-T ポートに UTP ケーブルを接続します。
2. ネットワークに接続するコンピューターなどに、10BASE-T 対応のネットワークインターフェースカードが正しく取り付けられていることを確認して、UTP ケーブルのもう一方をコンピューターなどのネットワークインターフェースカードに接続します。
3. 電源ケーブルのプラグを電源コンセントに差し込みます。
4. 本体上面のPOWER LED(緑)が点灯したことを確認します。UTP ケーブルが正しく接続され、コンピューターなどの電源が入っていれば、接続したポートのLINK LED(緑)が点灯します。

スタンドアローン

本製品は単純なスタンドアローンの環境で使用することができます。本製品とコンピューターなどとの間のUTPケーブルの長さは 100m 以内です。

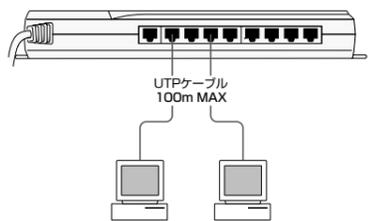


図 3 スタンドアローンの接続例

カスケード接続

カスケードポート(= HUB ポート)を使用すると、ケーブルをクロスタイプに変更することなく、簡単にカスケード接続を行うことができます。

本製品とHUB やスイッチを接続するUTPケーブルの長さは 100m 以内です。

カスケード接続をする場合は、本体下面のカスケードポート(= HUB ポート)にUTPケーブル(ストレートタイプ)を接続し、UTPケーブルのもう一方の端を、接続先の機器の通常の10BASE-T/100BASE-TXポートに接続します。

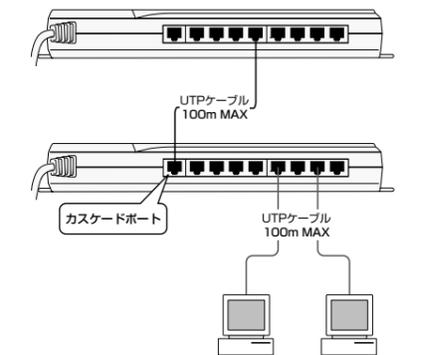


図 4 カスケード接続の例

カスケード接続できる HUB の数は最大 4 台までです。図5のように5台以上のHUBを接続しないようにしてください。

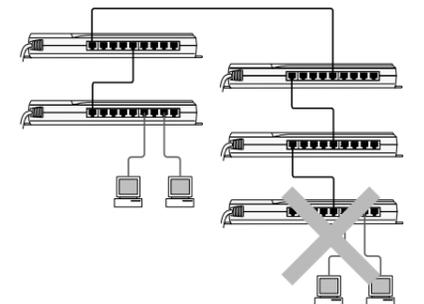


図 5 制限を超えたカスケード接続の例

トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、次のことをご確認ください。

- **POWER LED は点灯していますか?**
POWER LED が点灯しない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。
- **LINK LED は点灯していますか?**
LINK LED は接続先の機器と正しく接続されているときに点灯します。点灯しない場合は、次のことを確認してください。

- 接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。また、コンピューターなどに取り付けられているネットワークインターフェースカードに障害がないか、ネットワークインターフェースカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。

- UTP ケーブルが正しく接続されているか、正しい UTP ケーブルを使用しているか、UTP ケーブルが断線していないかなどを確認してください。また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。本製品とコンピューターなどを接続するケーブルの長さ、本製品とHUB やスイッチを接続するケーブルの長さはすべて 100m 以内です。

- 本製品のカスケードポートを確認してください。本製品のカスケードポート(= HUB ポート)を使用し、HUB やスイッチとカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポートと他のHUB やスイッチの通常の10BASE-T/100BASE-TXポートをUTPケーブル(ストレートタイプ)で接続してください。

- 特定のポートが故障している可能性もあります。ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

● 通信は正常に行われていますか?

マグネットと設置面との磁束の影響を受けていないか確認してください。マグネットを設置する面によっては、通信不良が起こる場合がまれにあります。そのときは、設置する面を変更してください。

製品仕様

準拠規格	
	IEEE802.3 10BASE-T
適合規格	
EMI規格	VCCI クラスA
安全規格	UL60950
通信速度	
10BASE-T	10Mbps
電源部	
定格入力電圧	AC100-120V
入力電圧範囲	AC90-132V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.5A
最大入力電流(実測値)	0.09A (AC90V)
平均消費電力	3.7W (最大4.1W)
平均発熱量	13kJ/h (最大15kJ/h)
環境条件	
動作時温度	0℃~40℃
動作時湿度	80%以下 (結露なきこと)
保管時温度	-20℃~60℃
保管時湿度	95%以下 (結露なきこと)
外形寸法	
	258(W) ×57(D) ×34(H) mm
質量	
	330g

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

保証

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。

● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、当社はその責をいっさい負わないこととします。

ユーザーサポート

本体の故障などのユーザーサポートは、「製品保証書」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。FAXでご連絡いただく場合は、本書裏面の「調査依頼書(CentreCOM RH508TP V2)」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記のサポート先にFAXしてください。記入内容の詳細については、「調査依頼書のご記入にあたって」をご覧ください。

- **アライドテレシス サポートセンター**
Tel : ☎ 0120-860-772
月～金曜日(祝・祭日を除く) 9:00～ 12:00
13:00～ 18:00

- Fax : ☎ 0120-860-662
年中無休 24 時間受付

調査依頼書のご記入にあたって

「調査依頼書」は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。迅速に障害の解決を行うためにも、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、次の点にそってご記入ください。記入用紙に書き切れない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

● ご使用のハードウェア機種について

製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。製品のシリアル番号、製品リビジョンは、製品の背面に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。

- (例)

● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージ内容のプリントアウトなどを添付してください。

● ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

おことわり

- 本書は、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピー、または転載することを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

Copyright © 2003 アライドテレシス株式会社

商標

CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

マニュアルバージョン

2003年3月 Rev.A 初版